

令和 6 年度 上 半 期 指定管理者管理運営状況シート

●施設の概要

施設名	岩野田児童センター	所管課	子ども未来部子ども支援課
所在地	岐阜市栗野東1丁目95番地		
指定管理者名	社会福祉法人 中部学院福祉会		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで		
選定方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募		
料金制	<input type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> 利用料金 <input checked="" type="checkbox"/> 料金徴収なし		
指定管理委託料(年額)	16,825,000円		
施設の設置目的	児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操を豊かにすることを目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造2階建 ◇敷地面積:1,095.03㎡ ◇延床面積:532.42㎡ ◇施設内容:遊戯室、幼児室、集会室兼図書学習室、図工室、おもちゃ図書館、事務室兼静養室、駐車場		

●利用状況

		R6上半期	R5下半期	R5上半期	R4下半期	R4上半期
利用者数 (単位:人)	来館者数	7,406	6,401	6,710	6,967	6,352
	移動児童館利用者数	379	349	335	293	197
各室稼働状況	移動児童館実施回数(単位:回)	※15(15)	※14(14)	※19(17)	※18(18)	※12(12)
	開館日数(単位:日)	154	151	155	151	155

※実施回数(施設未設置地区実施回数)

●業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応 ⑤仕様書、事業計画書に基づく事業の実施	①・⑤ 計画通り実施。事業については、新規事業の実施により、事業計画書記載の実施予定日から一部変更し、実施している。 ② 所長(常勤・児童厚生員)、常勤職員1名(体育指導員・児童厚生員)、非常勤職員3名(※2名が児童厚生員)。 ③ 児童センターだより「わくわく」を毎月3,000枚発行(※近隣の3小学校全児童、全職員に配付。近隣の4幼稚園、2保育園全園児、全職員に配付。岩野田北・岩野田・常磐地区全自治会会員宅へ回覧。近隣の3公民館、岐阜市北保健センター、JAぎふ岩野田支店、生活介護事業所アートフィールド、コンビニエンスストア等に配付、施設内展示)。ホームページへも掲載。指定管理者の広報誌にも児童センターでの行事の様子を掲載。 ④ 児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。また、半期に1度、利用者アンケートを実施、詳細な実態を把握後、課題解決に努めている。アンケート結果と対応を、館内廊下2か所に掲示。
自主事業 提案事業		

施設管理	①施設設備の保守点検の実施 ②施設の衛生管理に対する配慮、快適に利用できる状態の保持 ③省エネルギー並びに環境への負荷の軽減に努めること ④施設・設備・備品等の維持管理	① 適切に実施。 ② 館内清掃を毎朝、全職員で遂行。開館中は、利用者に使用済の玩具を回収箱に入れてもらい、職員が定期的に回収箱を確認、破損等を点検しながら使用された玩具を消毒、利用者が使用できる場所に戻す。オゾン式保管庫も活用。各部屋の出入り口のドアノブ、トイレ便座、トイレスリッパ、洗面台等も、定期的に消毒。閉館前には、使用された玩具や運動用具をすべて各階の1部屋に集め、破損等の点検、その後クロール水を室内に噴霧、消毒。週2回は、就労促進事業清掃班による館内清掃。トイレスリッパについては、月1回、消毒液で洗浄、消毒。年3回床のワックスがけ・エアコン清掃・ガラス磨き等を委託業者に依頼、徹底清掃。新型コロナウイルス、手足口病、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎等の感染対策として、上記消毒の徹底、換気、職員・施設利用者の手洗い・手指消毒等、感染防止策を徹底している。 ③ 経費削減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費削減につながる工夫はできないか」「大きな削減はできなくても、小さな削減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。事務用品・活動用品等の一括管理と適正在庫管理、こまめな室温・照明の調節、廃材、新聞・チラシ、裏紙等の活用など、全職員で取り組んでいる。備品購入・委託事業等は法人の経営する他施設と一括することで経費の節減を図っている。 ④ 毎朝・夕、施設内外の点検を実施。玩具については、消毒時や片付け時に1日複数回点検。破損がある場合は、おもちゃ病院の方に修理を依頼。屋外遊具の定期点検(年2回)実施
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ①迅速・適切な修繕の実施 ②指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	① 児童センターの屋内・外環境について、安全・安心・利用しやすい等の視点で見直し、日々改善を進めている。毎日の点検時に発見した箇所については、速やかに職員の手で修繕し、業者対応が必要な箇所については市担当課に連絡、相談、指定管理者(法人本部)とも相談し方針を決め速やかに対応している。 ② 簡易な修繕については、児童センター職員で対応。必要に応じ、指定管理者(法人本部)にも連絡、相談し、迅速・適切に対応している。
危機管理 法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①～③ 適切に実施。 年度当初、全職員で、各種マニュアル、関係法令等について、内容・対応を確認、共通理解している。安全・安心・利用しやすい等の視点で、日々の業務を全職員で見直し、随時改善を加えている。改善内容については、スタッフインフォメーションファイル等に記録し、全職員に周知することで、事故・苦情等の防止に活かしている。

●利用者評価

利用者アンケートの実施状況	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 期間: 令和6年6月1日～令和6年8月31日 回答者数: 122人 <小・中・高校生用アンケート> 期間: 令和6年6月1日～令和6年8月31日 回答者数: 114人(小学: 1年2人、2年14人、3年33人、4年28人、5年15人、6年18人) (中学: 1年1人、2年3人、3年0人)(高校: 1年0人、2年0人、3年0人)
利用者アンケートの実施結果	<保護者用(一般来館・クラブ参加)アンケート> 【校区】 岩野田北(36人)、岩野田(25人)、常磐(7人)、長良西(7人)、長良東(7人)、鷺山(3人)、三輪南(2人)、三輪北(2人)、日野(2人)、厚見(2人)、その他市内(8人)、その他市外(15人)、無回答(4人) 【年齢】 10代(4%)、20代(7%)、30代(67%)、40代(14%)、50代以上(6%)、無回答(2%) 【利用頻度】 初めて(19%)、ほぼ毎日(1%)、週2～3回程度(3%)、週1回程度(10%)、2週間に1回程度(18%)、月1回程度(31%)、その他(18%) 【来館相手】 子・孫(93%)、友人(5%)、その他(2%) 【子・孫の年齢】 0才(20%)、1才(25%)、2才(19%)、3才以上(35%)、無回答(1%) 【来館方法】 徒歩(12%)、自転車(3%)、自家用車(82%)、公共交通機関(0%)、その他(3%)

<p>利用者アンケートの実施結果</p>	<p>【何で知った】 施設のホームページ(26%)、広報紙・チラシ(10%)、学校から(9%)、保育所・幼稚園(6%)、知人・友人(25%)、その他(22%)、無回答(2%)</p> <p>【評価】</p> <p>(あいさつ) 満足(81%)、ほぼ満足(12%)、普通(5%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p>(言葉づかい) 満足(83%)、ほぼ満足(10%)、普通(5%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p>(利用者対応) 満足(81%)、ほぼ満足(11%)、普通(6%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p>(利用しやすさ) 満足(60%)、ほぼ満足(22%)、普通(13%)、やや不満(3%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p>(整理整頓) 満足(72%)、ほぼ満足(18%)、普通(8%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p>(清潔感) 満足(70%)、ほぼ満足(15%)、普通(13%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p>(換気) 満足(77%)、ほぼ満足(13%)、普通(8%)、やや不満(0%)、不満(0%)、無回答(2%)</p> <p><小・中・高校生用アンケート></p> <p>【学校名】 岩野田北小(79人)、岩野田小(29人)、岩野田中(4人)、その他市内(1人)、その他市外(1人)</p> <p>【学年】 小学: 1年(2%)、2年(12%)、3年(28%)、4年(25%)、5年(13%)、6年(16%) 中学: 1年(1%)、2年(3%)、3年(0%) 高校: 1年(0%)、2年(0%)、3年(0%)</p> <p>【利用頻度】 初めて(2%)、毎日(3%)、週4・5回(11%)、週2・3回(29%)、週1回(25%)、その他(30%)</p> <p>【来館相手】 ひとりで(21%)、友人(64%)、父母(6%)、親戚(1%)、その他(8%)</p> <p>【来館方法】 徒歩(14%)、自転車(68%)、自家用車(17%)、バス・電車(0%)、その他(1%)</p> <p>【好きな遊び】 ドッジボール(16%)、バドミントン(14%)、卓球(10%)、トランプ(9%)、ウノ(7%)、オセロ(6%)、人生ゲーム(6%)、将棋・チェス(5%)、その他(27%)</p>
<p>利用者からの要望・苦情と対処・改善</p>	<p><保護者></p> <p>・おもちゃがもう少し増えたらうれしいです。 →新しいおもちゃにつきましては、少しずつではありますが順次購入、導入予定です。児童センターにあると利用者の方が楽しんで活動できるおもちゃがあれば、センター職員にぜひお声掛け、ご紹介ください。よろしくお願いいたします。</p> <p>・おもちゃの片付け方の写真があると片づけやすいです。 →新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」にはなりましたが、手足口病や感染性胃腸炎、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎などその他の感染症の流行もあり、おもちゃの消毒、清掃についてはコロナ禍の対応と同様に行っております。一度使用されたおもちゃは、使用済おもちゃコーナーに片付けていただき、センター職員が消毒後に元あった場所に戻しております。おもちゃを使用されましたら、おもちゃが傷まないように使用済おもちゃコーナーに片付けていただければ大丈夫です。よろしくお願いいたします。</p> <p>・トイレの洋式化を要望します。 →トイレの洋式化につきましては、2階トイレへの洋式トイレの設置(※1階トイレには洋式トイレを設置済)について岐阜市担当課へ継続依頼中です。ご不便をおかけして申し訳ありません。よろしくお願いいたします。</p> <p>・カレンダーのチラシがあると嬉しいと友人が言っていました。 →毎月発行する児童センターだよりに、カレンダー形式の行事予定表を掲載しております。児童センター玄関や、児童センター近隣の公民館にも配架していただいておりますので、ご覧ください。よろしくお願いいたします。</p> <p>・入園前はクラブで利用していました。入園後は遊ぶところがないなと思って利用を控えています。1Fのおもちゃ図書館は年齢制限で入れなくなり、2Fの幼児室は赤ちゃんが利用していると遠慮します。他は小学生の部屋なので、入園後から入学前の子が利用しやすい場所があるといいなと思います。 →現在、4歳以上の小学校入学前のお子様にご利用いただける部屋は、1階遊戯室、2階幼児室・図書学習室になります。1階幼児室は0歳から小学校入学前のお子様、1階遊戯室・2階図書学習室については、小学生以上の児童も利用することができます。幼児室の室内スペースが狭くご不便をおかけし申し訳ありません。幼児室のおもちゃを使って図書学習室で遊んでいただくことは可能ですので、ぜひ、図書学習室をご活用ください。また、今年度、1階おもちゃ図書館と2階幼児室の改修を予定しており、改修後は、小学校入学前のお子様誰でも利用できる幼児室が、室内スペースが広い1階に変わります。改修工事が終わりましたら、館内掲示やセンターだより等でご案内いたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>・小学生のクラブの内容が充実してきて毎月の「わくわく」を子どもが心待ちにして、楽しんで参加していてありがたいです。時々、学校行事と重なってしまうと残念そうにしています。小学生の外遊びの仕方を時々気にかけてもらえると安心です。 →利用されるお子様が通われる学校が複数あり、学校行事との調整は難しく、対応できず申し訳ありません。主に土曜日・日曜日に実施している小学生対象の行事を増やしたり、平日にも小学生行事を計画するなど、今後も少しでも多くのお子様に参加していただけるよう工夫してまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。</p> <p>→小学生の外遊びの仕方については、「駐車場の車の近くでは遊ばないこと」「駐車場で車が動いている時は遊びを止め、安全になるまで待つこと」「大型遊具の利用の仕方」等々、日頃から声掛けによる安全指導に努めております。また、職員による見守りも随時行い、事故につながるような心配な遊びの様子が見られた時には、個別の声掛けや、利用者全体への放送による注意喚起等を行っております。よろしくお願いいたします。</p>

利用者からの
要望・苦情と
対処・改善

<児童>

・大会などの行事を増やしてほしい。

→児童センターでは、大会ではありませんが、室内モルックやカラム、将棋、オセロ、スリルボムなどをみんなで楽しむ機会を設けています。毎月発行する児童センターだより「わくわく」で参加者を募集しますので、ぜひ参加してください。実施日当日の申し込み、参加も可能です。よろしくお願いします。

・児童センターへ来るごとに100円。

→児童センターは無料で利用することができます。行事の参加についても、費用は必要ありません。ぜひ、児童センターを利用して、様々な遊びや活動を楽しんでください。よろしくお願いします。

・ブロックを投げて怒られた。

→ブロックで遊ぶ遊戯室には、他にもフラフープやけん玉、皿回しなど、様々な遊びを楽しんでいる人がいます。ブロックを投げたりすると周りで遊んでいる子に当たって危険です。児童センターは多くの人が利用します。誰もが安全、安心して楽しく活動できるようにご理解、ご協力をお願いします。

・たくさん遊びたい。

→「たくさん遊びたい」と思ってもらえるほど児童館を好きになってもらいありがとうございます。閉館時刻があり、いつまでも児童センターを利用してもらうことはできませんが、開館時間中、様々な遊びを大いに楽しんでください。児童センター主催行事にも参加いただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

・スイッチやお菓子を持って来たい。

→児童センターでは「家にはない遊び」や「家ではできない遊び」を体験していただきたいと考えています。今のところスイッチなど、利用者個人のおもちゃの持ち込みは控えていただくようお願いしています。ご理解、ご協力をお願いします。→児童センターでは様々な遊びや体験を、いろんな仲間と一緒に楽しんで欲しいと考えています。今のところお菓子やジュースなどの飲食については控えていただくようお願いしています。ご理解、ご協力をお願いします。

・(建物や遊戯室などが)小さいので、もう少しでかくしてほしい。

→活動スペースの関係で、安全面の配慮からできる遊びに制限があり申し訳ありません。児童センターには、現在のスペースで遊べるたくさんの玩具や遊具がありますので、ぜひ、それらの遊びを楽しんでもらえればと思います。よろしくお願いします。

●指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定 管理者	所管課	評価 委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	①平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・利用者アンケートの実施 ・運営委員会の開催	S	S	S
		②情報公開、広報の方策	・利用者アンケート結果の公表 ・広範で適切な情報提供・広報活動の実施	S	S	S
		区分評価				S
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用（設置目的）を最大限発揮するものであること	③既存業務の改善、工夫又は新規事業等の実施	・業務改善や工夫又は新規事業（行事）等の実施	S	S	S
		④利用者ニーズ、苦情などの把握方法、対応方策及びサービスの質を確保するための体制	・利用者アンケートの実施 ・利用者ニーズ・苦情・クレームへの着実な対応・運営への反映	A	A	A
		⑤利用者に対するサービス向上の方策（窓口対応、プロモーション、設備の整備など）	・移動児童館の実施 ・利用者へのサービス向上に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑥利用促進、利用者増の方策	・利用促進や利用者増に繋がる方策の実施	S	S	S
		⑦施設の効用（設置目的）を最大限発揮できるスタッフの配置	・過不足ない適正な人数配置、無理のない職員体制	S	S	S
		区分評価				S
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	⑧指定管理経費の妥当性	・収支計画の妥当性及び適正な予算執行	A	A	A
		⑨管理経費縮減の具体的方策	・管理経費縮減に繋がる方策の実施（リサイクルやリユース、節水・節電など）	S	S	S
		区分評価				S
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	⑩組織及びスタッフ（採用予定者も含む）の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・児童厚生員を2人以上、その他の職員（施設が児童センターの場合は体育指導員）を1人以上配置（このうち最低1人は常勤職員とすること）	S	S	S
		⑪スタッフ（採用予定者も含む）の管理、監督体制	・職員の連携体制、職場環境の整備	A	A	A
		⑫スタッフ（採用予定者も含む）の人材育成の方策	・職員の資質向上を図る研修の実施又は研修会への参加	S	S	S
		⑬リスクへの対応方策（利用者の安全確保策、防止策、非常時の対応マニュアルなど）	・危機管理（リスク）や非常時対応のマニュアルの整備 ・リスク防止策の実践	A	A	A
		区分評価				S
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域（以下「地元」という。）の振興、活性化などに貢献できるものであること	⑭地元の法人その他の団体の育成（一部業務の再委託先）、地元住民の活用（雇用又はボランティア等）	・地元の諸団体との連携、交流 ・地元の法人その他団体の育成又は地元住民・高齢者・障がい者等の活用	S	S	S
		⑮地元での社会活動等への参加	・地元の振興、活性化などに貢献できる社会活動等への参加（地元行事への参加）又は地元の団体・住民との協働事業等の実施	S	S	S
		区分評価				S

●指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

今期の取組み
に対する評価

【公平性・透明性】①

○センター運営上、利用者の思いの把握は重要であり、約3か月(6・7・8月)を調査期間として、アンケート調査を実施した。事前に、小学生以上の児童100名以上、幼児・小学生の同伴者100名以上を目標人数に設定し、入館受付時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に行い調査への協力を依頼した。声を掛けたほぼ全員の方に、アンケートの趣旨をよく理解した上で、調査に快く協力していただけた(回答人数⇒児童:114名、保護者:122名)。アンケートの設問内容の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を進めた。アンケート回収時には、多くの同伴者の方から、センター運営について理解ある言葉、励ましの言葉等も掛けていただいた。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したもののについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしている。

○岩野田児童センターの運営委員会は、地域の関係機関・団体の代表者20名と、児童センター職員5名の計25名で構成されている。今年度は、8月21日(水曜日)に開催した。日頃から小中学校や母親クラブ等、地域の関係機関・団体との関係づくりに努め、情報交流を密にしてきたことで、岩野田児童センターの運営状況の説明に時間を要さず、その後の意見交流に十分な時間をとることができた。児童センターでこれまで行ってきた子育て支援や新たに始めた事業等について、一定の評価をいただくとともに、「学校と児童センターが連携を密にし、協力して子どもたちの指導、支援にあたること」や「地域の関係機関との連携をさらに進め、センター行事の充実を図ること」など、センター運営、センター支援に関わる提案もいただくことができた。

【公平性・透明性】②

○「利用者アンケート結果・まとめ」を児童センター玄関近くの廊下及び2階廊下の2箇所に掲示している。

○アンケート結果・まとめには、集計結果とともに、利用者からいただいた意見・要望に対する回答をわかりやすく、具体的に明示した。いただいた貴重な意見・要望については、全職員で真摯に受け止め、実現可能な案件についてはできる限り早く利用者の期待に応えられるように対応策を検討し、実施している。

○児童センター日より「わくわく」を、毎月3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。

《配付先》

- ・エリア内3小学校全児童、全職員に配付
- ・エリア内3公民館に配付、館内展示
- ・エリア内3幼稚園、2保育園及び近隣1幼稚園(※エリア内在住園児多数在籍)の全園児、全職員への配付
- ・岐阜市北保健センターに配付、施設内展示
- ・山県市図書館・美術館・歴史民俗資料館、文化の里古田紹欽記念館(※岐阜市内在住者の利用多数)に配付、館内展示
- ・エリア内3地区全自治会員に回覧
- ・JAぎふ岩野田支店に配付、施設内展示
- ・生活介護事業所アートフィールドに配付、施設内展示
- ・岩野田地区在住の方がオーナーをされている近隣のコンビニエンスストア2店舗に配付、施設内展示

○岩野田児童センターのホームページを活用し、「施設紹介」「児童センター日より『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の紹介」「行事の中止・延期の連絡」「気象警報・強風注意報等発令時の閉館の連絡」等を行っている。

○今年度から新たに「ライデン・スクール(メールによる情報配信)」を導入し、幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧に依頼している。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、

【効果性】③

○児童センター内の案内掲示や依頼掲示等を、利用者「に見ていただけるか」「理解していただけるか」等の視点で随時評価し、更新している。また、様々な外部機関から掲示、展示を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、展示することで、多くの方に活用していただいている。センターを利用する小中学生や、利用者の同伴者の方からも、「わかりやすい。」「見やすい。」「といった感想をいただいている。センター利用に関するルールや依頼事項等について、全職員であらためて共通理解するよい機会にもなっている。

○今年度4月から、幼稚園・保育園で20年以上勤務し、管理職経験もある常勤職員1名が新たに勤務している。以前から勤務している小中学校での勤務経験が長い2名の職員(所長と非常勤職員1名)に新たに勤務したこの職員を加え、この3名を中心に全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例えなく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。上記の「センター内案内掲示や依頼掲示等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類、整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修(OJT)」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」、他にも、「遊戯室や図書学習室(集会室)など、各部屋の使用ルールの見直し(安全・利用しやすい・活動機会の公平性から)」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室(集会室)、事務室等の環境整備(安全・利用しやすいから)」「多目的ルームでの事務用品、活動用品等の一括管理(業務の効率化、経費縮減から)」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々実践を進めている。

○今年度も、幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で評価、改善し、下記のように変更し、実施している。

▷チューリップクラブ(0歳児):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で各5回、ベビーマッサージを実施する。

▷タンポポクラブ(1歳児):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、運動遊び(上半期3回)とリトミック(上半期2回・下半期5回)を実施する。さらに、岩野田児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。

▷ヒマワリクラブ(2歳児以上):実践経験豊富な外部人材に講師を依頼し、上半期・下半期登録制で、リトミック(上半期5回・下半期2回)と運動遊び(下半期3回)を実施する。さらに、児童センター職員が講師となって、季節行事等を上・下半期、各5回実施する。

▷スマイルクラブ(1歳児以上・移動児童館):実践経験豊かな外部人材や児童センター職員が講師となって、運動遊びやリトミック、季節行事等を上半期・下半期登録制で各10回実施する。

○利用者アンケートにご記入いただいた、「父親と参加できるイベントをまた行ってほしいです。」という要望を受け、保護者向け講座を、「パパの子育てクラブ○○○○」や「親子で○○○○」といった名称でも企画、実施し、利用者から好評をいただいている。

○昨年度新設した小学生クラブ(※土曜日・日曜日・祝日に実施)を、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。さらに今年度から、平日の放課後に小学生を対象としてミニクラブを新設し、実施している。

▷将棋クラブ(継続):参加者は、活動時間内に、ペアを替えながらたくさんの対局を行っている。将棋を楽しみながら、よい仲間づくりの場にもなっている。

▷手芸クラブ(新規):簡単ヘアゴムやキャンディストラップ、フルーツコースターなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

今期の取組み
に対する評価

▷理科実験クラブ(新規):理科的学びの要素を取り入れた制作活動と、作品を使った簡単な実験を組み合わせることで、理科を楽しむ機会となる場を設定している。

▷クラフトクラブ(継続):パタパタ変身キューブやガラススタイル・コースター、動物メモスタンドなどの制作活動を通して、ものづくりの楽しさを味わう機会となる場を設定している。

▷ミクラフトクラブ(新設):職員が自宅から持ち寄ったペットボトルキャップをリユースして、魚や花などのデコレーションマグネット等を制作している。平日の放課後に実施するため、短時間で完成できるように事前に職員で材料を加工し、参加者に提供できるよう工夫している。

○今年度から新たに「ライデン・スクール(メールによる情報配信)」を導入し、幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧
に依頼している。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、
安全にできるようになり、利用者のニーズの把握、利便性の向上、センター運営の効率化等につながっている。

○今年度、外部機関や団体、個人と連携し、下記のような新規事業を企画、実施した。

▷ヒノキのカスタネットの制作とカスタネットを使った遊び:中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授に講師を依頼し、幼
児親子を対象として実施した。講師に準備していただいた部品を、親子でカスタネットの形に組み上げ、ペンで模様を描い
て作品を仕上げた。講師の歌声に合わせて、完成したカスタネットを演奏したり、体を動かしたりして活動を楽しんだ。

▷JAコボ田植え体験:JAぎふ岩野田支店から提案いただき、JAの営農担当の方を講師に、親子を対象として実施した。
近隣地域のボーイスカウトや小学校(希望者)との合同の活動でもあり、農業体験だけでなく、地域に住む多くの方との貴
重な交流の場ともなった。

▷ドローン操作体験:近隣地域在住の外部人材に講師を依頼し、小学3年生以上を対象として、ドローン操作体験を実施し
た。参加者は、ドローンの基本的操作と注意事項の説明を聞いた後、一人ずつ遊戯室内のコースに沿って「離陸→飛行→
着陸」の操作を体験した。

▷マジック教室:マジックの指導経験が豊富な外部人材に講師を依頼し、小学3年生以上を対象として、マジック教室を実施
した。参加者は、トランプを使ったマジックとロープを使ったマジックに、講師の説明を聞きながら何度も繰り返し取り組み、
二つのマジックのやり方を身に付けることができた。

一昨年度から実施している「楽しく親子でパン作り教室」「トウモロコシの収穫、皮むき&えだまめの収穫で食育体験」「劇
団ラッキー・キャッツのおはなし劇場」「モノ作り教室(風力発電装置)」「夏休み工作教室(ウッドクラフト)」等の行事は、内
容をさらに充実させて今年度も継続、実施している。日頃から、近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画
できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て様々な行事を開催することができてい
る。

○今年度から勤務している幼稚園・保育園での勤務経験が長い職員が中心となり、幼児クラブとは別に幼児親子を対象と
して下記のような新規事業を企画、実施した。

▷フィンガーペイント:参加した幼児は、手や指を使って絵の具を塗る感覚や、色が混ざることなどを、五感をフル活用して
楽しみながら、自由に塗ったり描いたりして表現活動を楽しんだ。

▷ペットボトルシャワーの制作と遊び:親子で、絵を描いたりシールを貼ったりしてペットボトルをかわいく仕上げた。完成した
ペットボトルに水を入れ、職員が事前にあけた底の穴から水を出し、シャワーのように使って親子で遊びを楽しんだ。

▷はじき絵:親子で画用紙にクレヨンで絵を描き、その上に水彩絵の具を塗ることで、クレヨンで描いた絵が浮き出るのを楽
しんだ。

○遊戯室全体を使うドッジボールやバドミントン、鬼ごっこなどをする時には、その時間、安全面への配慮から遊戯室を他
の遊びで使うことができなくなるため、遊戯室の利用について活動時間を区切った事前申込制になっている。特にドッジ
ボールについては、遊戯室という限られたスペースで安全に、楽しく遊ぶために、子どもたちと一緒に話し合い、コートに入
る定員を12名とし、やりたい子が12名を超える時には交替でコートに入るようルールを決めて活動している。遊戯室全体
を使い多人数で行う遊びについては、必ず子どもたちが一緒に遊ぶ仲間の中でリーダーを決め、リーダーを中心に安全に
楽しむためのルールを意識し、互いに声を掛け合って活動している。

○児童センターでは、ボランティア活動を行う「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)」を位置づけている。毎月発行するセ
ンターだよりで参加者を募り、参加者とともに職員も活動し、翌月の活動内容と一緒に考えながら、ボランティア活動の対
象(※地域を中心に)の広がりを、子どもたちのボランティアに関する意識の醸成を図っている。

○センター職員に児童が話す、「僕、○○、得意だよ。」「私、○○、できるようになったよ。」「という児童の言葉を受けとめ、
児童の得意を、児童の自己有用感の向上や、児童相互の交流・仲間づくりに活かすため、けん玉や皿回し、フラフープや
ルービックキューブなどが得意な児童を「○○先生」として児童センター内で位置づけた。「○○先生名札」を作成して児童
の「できる」を認め、名札を誰もが見ることができる2階廊下壁面に掛けておくことで、「○○先生」と「遊びを上達したい児
童」との交流の機会が生じやすい環境づくりにも努めている。

○毎月、「なわとび検定日」と「けん玉検定日」を設け、子どもたちが継続して目標達成に挑戦できる機会を設定している。
検定カードには、子どもたちが「目標→努力→達成(できる自分を発見)」のサイクルで練習し、技能を向上できる(自己有
用感を実感できる)ように、達成する課題と級を明示し、名人に到達した児童には認定証を作成し事務室前廊下に掲示す
ることで努力を認め、位置づけている。

【効果性】④

○来館者の利用受付時や退館時を個別に関わるができる(コミュニケーションできる)好機ととらえ、幼児親子や小中
高生、同伴者に積極的に声を掛け、関係づくりに努めた。小中高生とは、相談内容については他言しないことを約束しなが
ら、気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にしたり関わり、共感的理解と支援、相談児童の居場所づくり、信頼関係づくりに
努めた。

○職員のあいさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・にこやか」に、「親切・丁寧」に対応することを
全職員で共通理解し、利用者との関係づくりに努めた。上半期に実施した利用者アンケートでは、職員の「あいさつ」につ
いては93パーセント、「言葉づかい」については93パーセント、「利用者対応」については92パーセントの方から満足・ほ
ぼ満足との評価をいただき、「皆さんが笑顔で、こちらも笑顔になります。」「電話の対応も明るく丁寧で」「優しく対応してく
ださり」「アットホームな雰囲気です。」「いつも優しく話しかけていただき」「いつも親切にしていただいで」「優しく丁寧な対応
をしていただいて」といった言葉で、センター職員の対応の「よさ」を具体的に評価もしていただいている。

○十分な期間(6月から8月末までの約3か月)をかけてアンケート調査を実施した。事前に、より多くの方の意見を伺いた
いというねらいから、小学生以上の児童100名以上、幼児・小学生の同伴者100名以上を目標人数に設定し、入館カード
記入時に、すべての来館者に声を掛け、アンケートの趣旨説明を丁寧に言い調査への協力を依頼した。アンケートの設問
内容の理解に不安がある児童については、センター職員が寄り添い、質問内容をわかりやすく説明しながら、回答記入を
進めた(回答人数⇒児童:114名、保護者:122名)。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱(複数)を常設し、
利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したも
のについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くにその対応内容を掲示し、利用者にお知らせしてい
る。

○上半期に実施した利用者アンケートでは、施設の「利用しやすさ」については82パーセント、「整理・整頓」については90パーセント、「清潔感」については85パーセント、「換気」については90パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただいた。「いつもきれいです。」「きれいで使いやすいです。」「安心して利用できる。」「子ども一人で来館しても安心して過ごせるため、親としてあそび場の一つとしてとてもありがたいです。」といった言葉で、センターの「よさ」を具体的に評価もしていただいた。

一方、「新しいおもちゃや設備を導入してほしい。」「トイレを新しいものにしてほしい。」「駐車場にとめられる車の台数が少ない。」という理由で、3名の方から「やや不満」という評価もいただいている。いただいた評価や、意見・要望については、アンケート結果のまとめに、施設としての対応とその理由を明示し、施設内に掲示、公開するとともに、今後も利用者に対して真摯に対応するよう、職員間で共通理解、意思統一を行った。

・「新しいおもちゃや設備を導入してほしい。」という意見に対しての対応
⇒アンケートの回答を通して、新しいおもちゃについては順次購入、導入予定であることを伝えている。また、児童センターにあると利用者の方が楽しんで活動できるおもちゃがあればセンター職員に紹介していただけるようにも願っている。

⇒アンケートの回答を通して、設備については、昨年度末と今年度初めに1階遊戯室内の壁面塗装を行ったこと、今年度中に1階おもちゃ図書館と2階幼児室の改修を予定していること、児童センターの施設内については毎朝、職員による清掃を行っており、毎週火曜日・金曜日については外部業者による清掃を行っていることを伝えている。

・「トイレを新しいものにしてほしい。」という意見に対しての対応
⇒アンケートの回答を通して、2階トイレへの洋式トイレの設置（※1階トイレには洋式トイレを設置済）について岐阜市担当課へ継続依頼中であることを伝えている。

・「駐車場にとめられる車の台数が少ない。」という意見に対しての対応
⇒アンケートの回答を通して、駐車スペースの不足が予測される行事開催日については、近隣施設の駐車場を利用できるように他施設の責任者の方への依頼、連携を進めていること、駐車スペースでお困りの際は児童センター職員に尋ねていただければ、利用できる他施設の駐車場を案内させていただくことを伝えている。

○来館された利用者の方に児童センター職員から積極的に声を掛け、関係づくりに努めるとともに、会話する中でそれぞれの思いやニーズを把握し対応することで、信頼関係づくりにも努めた。幼児の同伴者の方からいただいた要望をもとに児童センター内に設置した「幼稚園・保育園情報コーナー」については、情報提供園の増加・充実と、利用者の情報活用が進んでいる。また、近隣地域在住の専門家の方の協力を得て設置した「発達・子育て相談」ができる場についても、利用者への周知が進み、活用方法の問い合わせがセンターに届くようになっている。

○今年度から新たに「ライデン・スクール（メールによる情報配信）」を導入し、幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧依頼している。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、利用者のニーズの把握、利便性の向上、センター運営の効率化等につながっている。

【効果性】⑤
○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。

【実施回数】4月⇒常磐地区1回実施 5月⇒常磐地区2回、市外（山県市高富）1回実施
6月⇒常磐地区3回、岩野田地区1回実施 7月⇒常磐地区2回、市外（山県市高富）1回実施
8月⇒常磐地区1回実施 9月⇒常磐地区2回、岩野田地区1回実施

【実施内容】・親子で保育園・幼稚園見学、活動体験（指導者：保育園・幼稚園職員）
・楽しく親子でパン作り教室（指導者：外部講師） ・運動遊び（指導者：外部講師、児童センター職員）
・リトミック（指導者：外部講師） ・バスごっこ、感触遊び、畜産センターで遊ぼう（指導者：児童センター職員）
・田植え体験（指導者：JAぎふ岩野田支店営農担当職員） 等

○職員のあいさつや言葉づかい、入館受付や利用案内等について、「明るく・にこやか」に、「親切・丁寧」に対応することを全職員で共通理解し、日々実践を継続している。上半期利用者アンケート回答者の92～93パーセントの方から満足・ほぼ満足との評価をいただき、センター職員の対応のよさを具体的意見でも評価していただいた。

○児童センター内の各部屋や玩具・遊具等の利用についての案内掲示や依頼掲示等を、利用者に見ていただけるか「理解していただけるか」等の視点で随時評価し、更新している。また、様々な外部機関から掲示、展示を依頼されるポスターやパンフレット等についても、分類・整理して掲示、展示することで、利用者の方が目的のものを見つけやすくなり、多くの方に活用していただいている。センターを利用する小中学生や、利用者の同伴者の方からも、「すっきりしましたね。」「わかりやすくなりましたね。」という感想をいただいている。

○今年度から新たに「ライデン・スクール（メールによる情報配信）」を導入し、幼児クラブ参加者にメール受信登録を丁寧依頼している。ライデン・スクールを活用することで、児童センターからの連絡、利用者アンケート調査等が簡単、迅速、安全にできるようになり、センター運営の効率化と利用者の利便性の向上につながっている。

○児童センター玄関近くの廊下に、児童用アンケート用紙、保護者用アンケート用紙、アンケート回収箱（複数）を常設し、利用者がいつでもセンターに対する意見や感想を記入し、投函できるように対応している。アンケートを確認し対応したものについては、センターからのメッセージとして、アンケート回収箱近くに掲示し、利用者にお知らせしている。

○来館者入館時に事務室内でチャイムが鳴るように機器を設置し、利用者が複数の幼児を連れた幼児親子さんの時など支援を必要とされる場合は、玄関ドアを開け安全でスムーズに入館できるように援助している。退館時にも、同様に玄関ドアの開閉をお手伝いしている。

【効果性】⑥
○児童センターだより「わくわく」を毎月3,000枚配付し、センター利用の促進を図っている。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。

○児童センターのホームページを作成、活用し、「施設紹介」「児童センターだより『わくわく』の公開」「ブログによる実施行事の様子紹介」等を行っている。

○今年度から新たに導入したライデン・スクール（メールによる情報配信）を活用して、センターから幼児クラブ参加者に、センター事業の紹介、参加案内を行っている。

○近隣にある児童発達支援施設、放課後等デイサービス施設等とも連携を図り、参加いただけそうな行事については個別に声を掛け、利用を勧めている。

【効果性】⑦
○岩野田児童センターに現在在籍する職員は常勤2名、非常勤3名の計5名である。そのうち4名が児童センター仕様書に記載されている「児童厚生員」の要件を満たしている。さらに、幼稚園教諭、保育士、小中高・養護学校教諭等の免許を有する職員が3名在籍し、幼稚園、保育園、小中学校での経験も豊富であり、内2名は管理職経験も有している。今年度4月から、幼稚園・保育園で20年以上勤務し、乳幼児への指導・支援経験豊富な職員が勤務しており、昨年度から勤務している職員を含め、児童センターの子どもたちへの指導・支援体制はさらに厚くなっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【効率性】⑧
○岩野田児童センターの収支管理を担う社会福祉法人中部学院福祉会は、岐阜市の民営化第1号の常磐保育園を経営しており、毎年、岐阜市の監査、指導を受け、適格に予算を執行している。また、中部学院福祉会の理事会が年4回、評議員会が年2回開催され、その都度、収支や施設運営についての確かな指導、助言もいただいている。

【効率性】⑨

○今年度も、電気料金や燃料費の高騰による経費圧迫を見据え、児童センターでは、経費削減の必要性について全職員で共通理解し、日々勤務する中で、日常業務の一つ一つについて「経費削減につながる工夫はできないか」「大きな削減はできなくても、小さな削減の積み上げが大切」という視点で見直しを進めている。

《具体的実践例》

- ・事務室、遊戯室倉庫、おもちゃ図書館倉庫、階段下倉庫、多目的ルームで管理していた各種事務用品、活動用品等を多目的ルームで一括管理し、業務の効率化と適正な在庫管理による経費削減を図っている。
- ・作品材料として、牛乳パック、ペットボトルキャップ、ペットボトル容器、各種テープ類やラップの芯、各種ペーパー類の空き箱等を捨てずに児童センターで保管したり、職員が自宅から持ち寄ったりして、安心・安全に配慮しながら、センターで行う行事を低コストで実施できるよう、日々対応している。
- ・紙ベースで配付していた職員のシフト表や各種連絡事項等を、ライデン・スクール（メールによる情報配信）を活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。
- ・紙ベースで配付していた幼児クラブの参加案内を、ライデン・スクール（メールによる情報配信）を活用してデータで配信するように変更、ペーパーレス化を進めている。
- ・赤ちゃんステーションとして利用者に提供する準備をしているミルクのお湯を、電気ポットではなく、保温時間がなく節電につながる電気ケトルで用意している。
- ・児童が利用した後、センター屋内・外にある手洗い場の蛇口が完全に閉められていないことがあるため、頻繁に職員が点検・確認し、節水に努めている。
- ・センター利用者がいない場合は、廊下や各部屋の照明を、外光が差さない側の一部のみ点灯しておくようにし、センター利用者の入館しやすさを損なわない程度に節電に努めている。
- ・各種行事の企画にあたって、費用負担が軽減できる中部学院福祉会の関係機関や団体との連携をまず検討し、その他の外部機関・団体や近隣地域在住の方との連携についても、できる限り少ない費用負担で協力いただけるよう連携相手との打ち合わせを行っている。

【安定性・安全性】⑩

○現在、児童厚生員4名、体育指導員1名を配置している。

○岩野田児童センターに現在在籍する職員は常勤2名、非常勤3名の計5名である。そのうち4名が児童センター仕様書に記載されている「児童厚生員」の要件を満たしている。さらに、幼稚園教諭、保育士、小中高・養護学校教諭等の免許を有する職員が3名在籍し、幼稚園、保育園、小中学校での経験も豊富であり、内2名は管理職経験も有している。今年度4月から、幼稚園・保育園で20年以上勤務し、乳幼児への指導・支援経験豊富な職員が勤務しており、昨年度から勤務している職員を含め、児童センターの子どもたちへの指導・支援体制はさらに厚くなっている。

○センター利用に関わるルールの理解が十分ではない児童や、集団の中で活動する上で安心・安全面で言動に不安がある児童も見られ、利用者の多い火曜日から金曜日については、職員配置を3名とし、1・2階各フロアー、事務室に1名ずつ職員を置き、配慮を必要とする児童への支援を徹底するよう努めている。

【安定性・安全性】⑪

○今年度4月から、幼稚園・保育園で20年以上勤務し、管理職経験もある常勤職員1名が新たに勤務している。以前から勤務している小中学校での勤務経験が長い2名の職員（所長と非常勤職員1名）に新たに勤務したこの職員を加え、この3名を中心に全職員で、今年度も児童センターの環境や事務処理、利用者対応等、センターのハード、ソフト両面を例外なく新鮮な目で見直し、随時改善を加えている。「センター内案内掲示や依頼掲示等の一新」「ポスターやパンフレット等の分類・整理」「利用者への支援に必要な職員配置」「利用者支援に必要な専門性に関わる図書整備や職員研修（OJT）」「職員間で情報共有するための支援記録ノート」、他にも、「遊戯室や図書学習室（集会室）など、各部屋の使用ルールの見直し（安全・利用しやすさ・活動機会の公平性から）」「玄関や廊下、おもちゃ図書館、幼児室や図書学習室（集会室）、事務室等の環境整備（安全・利用しやすさから）」「多目的ルームでの事務用品、活動用品等の一括管理（業務の効率化、経費削減から）」「見直し・改善内容を職員間で情報共有、徹底するためのスタッフインフォメーションファイル」等々、日々実践を進めている。

特に、増加傾向にある発達に課題を抱え、配慮を必要とする児童の理解、支援の手立てについては、関係専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、日々OJT形式で、職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援については、上記の支援記録ノートに記載、累積し、その後の支援に活かしている。さらに、それぞれの毎月の勤務日数が6日～9日と少ない非常勤職員が2名在籍し、連携は課題であり、「常勤職員と非常勤職員との連携を密にすること」「支援記録ノートやスタッフインフォメーションファイルへの記載を実践につながるよう理解しやすい内容とすること」等、職員間の日々のコミュニケーションや、コミュニケーションツールを工夫・活用することで、課題改善、職員連携体制の構築、充実を図っている。

○事務室で経年管理していた資料・文書や事務用品・活動用品等を多目的ルームで管理、保管することとし、事務室内のスペース活用の効率化を図っている。

○事務室で使用頻度の高いパソコン3台に大型モニターを設置し、2台のモニター（既存のモニターと大型モニター）を使用した事務処理を可能としている。

【安定性・安全性】⑫

○「遊びによる子どもの育成」「子どもの居場所の提供」「配慮を必要とする子どもへの対応」等、児童センターが担う業務と関わる専門図書を事務室に複数購入、整備し、幼稚園・保育園や小中学校での経験豊かな職員数名が講師となり、日々OJT形式で職員研修を行うなど、対応を徹底している。日々行った児童への支援についても、それぞれ専用の記録ノートに記載、累積、全職員で共有し、その後の支援に活かしている。

○新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に変更されて以降は、これまで控えていた集合形式で行われる研修会についても、業務日程を調整し、積極的に参加している。

《児童センター職員が参加した研修会》

- ・第23回 ぎふLD・ADHD等学習会「ディスクレシア・読みの苦手な子どもの理解と支援
ー T 式ひらがな音読支援をもとにしたワークショップ」

- ・岐阜県子育て支援事業従事者等研修『「こどもまんなか社会」の実現に向けた支援とは
～赤ちゃんも含めた、乳幼児・こども・家庭の声を『まんなか』に据えて』

- ・ベビーマッサージ資格講習会

- 「触れる 見つめる 語りかける わらべうたベビーマッサージ資格講習会」

※今年度から新たに勤務している幼稚園・保育園で20年以上の勤務経験、管理職経験もある常勤職員1名が受講。資格取得後は、「わらべうたベビーマッサージインストラクター」の知識・技能を活かし、自身が担当する幼児親子を対象とした行事の工夫・改善や、児童センターを利用される幼児親子への支援の工夫・充実に努めている。

【安定性・安全性】⑬

○市の方針にもとづき作成、活用している「非常災害対策計画」を年度当初に見直し、必要な修正を加え、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

○年度当初、岩野田児童センターの「社会福祉施設避難確保計画」をもとに、緊急時に対応できるよう職員研修を行い、その内容について全職員で共通理解した。

<p>今期の取組み に対する評価</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更はされたが、手足口病や感染性胃腸炎、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎などその他の感染症の流行もみられるため、これまで実施してきた感染症対策を基本に対応を職員で共有、徹底している。特にセンター職員及びセンター利用者の体調確認、手洗い・消毒、換気等、基本的感染対策については確認と働き掛けを徹底して行っている。</p> <p>○児童センター内外を、「リスク防止」の視点で点検、確認し、事故の未然防止に努めている。新型コロナ等感染防止のための消毒・換気、玩具・運動用具・遊具等の安全点検、コーナークッションの貼付、コンセントカバーの取付、運動用具保管方法の見直し、事故防止のための注意喚起掲示の工夫・設置等、「まだ、すべきことがある」という意識で、全職員で、リスク防止、対応に努めている。</p> <p>○上記のマニュアルの他、センターで作成済の各種緊急時対応マニュアルについては、事務室内の確認しやすい場所に保管している。また、運動事故対応や新型コロナ等感染対応等については、対応のポイントをまとめたものを、職員がすぐ手に取りやすい場所に置き、職員の自己研修と危機管理に対する意識、対応力の向上を図っている。</p> <p>【貢献性】⑭</p> <p>○「たからばこ」「おはなしポケット」「コッコのおはなし」「おもちゃ病院」等、地元の諸団体の方に、定期的に活動をしていただいている。各団体の活動予定については、活動日の前月に発行する児童センターだより「わくわく」に掲載し、紹介している。</p> <p>○児童センターだより「わくわく」を、毎月、下記の外部機関・団体の協力を得て、配付、回覧、施設内展示をしていただいている。毎月、3,000枚配付している。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。</p> <p>○今年度も、外部機関や団体、個人と連携し、「ヒノキのカスタネットの制作とカスタネット」や「JAコラボ田植え体験」等、新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○岩野田青少年育成市民会議家庭部会から依頼を受け、幼児親子(対象児童年齢:0歳、1歳)を対象にして、「親子ふれ合い遊び」と「絵本の読み聞かせ」を行った。</p> <p>○児童センター近隣の児童発達支援・放課後等デイサービスと連絡を取り合い、児童センターの利用推進を図っている。</p> <p>○児童センター近くにあるにグループホームと連絡を取り合い、施設入居者の児童センター行事への参加、児童センター利用者との交流について情報交換を随時行っている。</p> <p>【貢献性】⑮</p> <p>○新型コロナウイルス感染症は「5類感染症」に変更はされたが、手足口病や感染性胃腸炎、A型溶血性連鎖球菌咽頭炎などその他の感染症の流行もみられるため、地元行事への参加については「参加者の安全・安心」を最優先に、慎重に判断し決定している。今年度上半期は、児童センター近くにあるグループホームと連絡を取り合い、施設入居者の児童センター行事への参加、児童センター利用者との交流について情報交換を行っている。</p> <p>○まだ十分には地元行事への参加ができていない状況を補完するため、「地域での児童センターの理解」を促進するため、毎月、下記の外部機関・団体の協力を得て、児童センターだより「わくわく」の配付、回覧、施設内展示をしていただいている。毎月、3,000枚配付している。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。</p> <p>○今年度も、外部機関や団体、個人と連携し、「ヒノキのカスタネットの制作とカスタネットを使った遊び」や「JAコラボ田植え体験」等、新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○地域の団体・住民からの協働事業提案につながる「地域での児童センターの理解」を促進するため、毎月、下記の外部機関・団体の協力を得て、児童センターだより「わくわく」の配付、回覧、施設内展示をしていただいている。毎月、3,000枚配付している。詳細は【公平性・透明性】②に記載済み。</p>
<p>前回までの意見を 踏まえた取組み状況</p>	<p>○今年度も、幼児クラブの内容を、子どもの発達・成長につながる「専門的支援」と「継続的支援」の二つの視点で評価、改善し、実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○今年度から勤務している幼稚園・保育園での勤務経験が長い職員が中心となり、幼児クラブとは別に幼児親子を対象として「フィンガーペイント」や「はじき絵」等、新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○昨年度新設した小学生クラブ(※土曜日・日曜日・祝日に実施)を、活動に参加した児童の意見も参考にしながら全職員で評価、検討、改変し、今年度も継続、実施している。さらに今年度から、平日の放課後に小学生を対象としてミニクラブクラブを新設し、実施している。詳細は【効果性】③に記載済み。</p> <p>○今年度も、外部機関や団体、個人と連携し、「ヒノキのカスタネットの制作とカスタネットを使った遊び」や「JAコラボ田植え体験」等、新規事業を企画、実施した。詳細は【効果性】③に記載済み。日頃から、近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、交流を深めてきたことで、多くの方の理解と協力を得て様々な行事を開催することができている。</p> <p>○児童センターから遠い常磐地区の児童の利用を確保するために、魅力ある活動内容を工夫、準備し、毎月2回以上の開催を原則として、移動児童館事業にも力を入れている。詳細は【効果性】⑤に記載済み。</p> <p>○児童センターでは、ボランティア活動を行う「V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)」を位置づけている。毎月発行するセンターだよりで参加者を募り、参加者とともに職員も活動し、翌月の活動内容も一緒に考えながら、ボランティア活動の対象(※地域を中心に)の広がりや、子どもたちのボランティアに関する意識の醸成を図っている。</p>
<p>今後の取組み</p>	<p>○来期も継続して近隣地域の外部機関や団体、個人と連携した行事が企画できないか情報収集に努め、利用者のニーズに合った行事を企画、開催していきたい。また、既存の連携行事についても参加者の意見を参考に内容の改善、充実を進めたい。地域の様々な人と連携した行事を実施し、ブログ等で紹介しながら、児童センターとの連携について地域の理解をさらに広めていきたい。</p> <p>○来期も継続して、日々利用者ニーズの把握に努め、児童センター職員の経験を活かしながら新しい活動や行事の企画、運営を推進したい。</p> <p>○来期も継続して、V・わくわく隊(小学生ボランティア隊)の活動の充実を図っていききたい。「地域との関わり」を大切に活動を仕組み、V・わくわく隊のメンバーの達成感とボランティア活動への意欲をさらに高めていきたい。</p>

●所管課の意見

○幼児クラブの内容を見直し、経験豊かな外部講師によるリトミックや職員による季節行事等を行ったり、新たに木育や食育に関する事業を実施する等、業務改善や新規事業に積極的に取り組んでいる。

○移動児童館を上半期で15回実施(うち未設置地区15)する等、児童館未設置地区での児童館の活動普及に取り組んでいる。

○地元の各種団体や住民に講師を依頼し、田植え体験やドローン操作体験等、地域と連携、協働して多岐にわたる事業に取り組んでいる。

●指定管理者評価委員会の意見

○移動児童館を15回実施しており、積極的に取り組んでいる。

○利用者の多い火曜日から金曜日について、通常より職員を手厚く配置し、配慮を必要とする児童への支援を充実させている取り組みは評価できる。

○職員のスキルを活かした様々な新規事業が実施されている。

○当たり前とされている慣習を子ども目線から見直して業務改善に取り組まれていることは評価できる。